

大鉢森山

-634m-

岩手県水沢市

水沢駅通り(スガハラ前)から岩手県交通バス大平行き山沢下車

水沢市内最高峰の山

2000年11月4日

913 秋成(岩手県交通バス 秋成 - 山沢 ¥460)

933 山沢

1105 山頂

1210 山頂発

1354 山沢

1408 秋成

水沢市内で最も標高が高い大鉢森山に行く事にした。紅葉が楽しみ。当日の天気予報は晴との事だったが出かける時はどんよりとした厚い雲。肌寒い。山沢バス停で下車した時も路面が少々濡れていて今にも雨が降ってきそう。

バス停から水沢市・江刺市の境界へ県道を100m程戻る。境界から左に入る林道を登り始める。最初は牧草地帯の中を通る。帰りに時間が余ったらここで昼寝したい。その後、大久保川と林道は並行する。ほぼ中間地点に大きなブナの木が道ばたに立っている。この付近の紅葉は見事である。大久保川には無数の小沢が合流し水量も多い。沢の音を聞きながら歩く。

林道の分岐点(直進と右に分岐,直進する)から先は道が細くなる。上空を見ると雲一つ無い青空が広がっていた。気温も上がり汗ばんできたので上着を脱ぐ。思いがけず前方から動物がこちらめがけて走ってくる。犬であった。小生の目の前で道を塞ぐようにして吠えるので前に進めない。首輪をしているので飼い主が近くにいると思うが、捨て犬かも知れない。さてどうするものかと思っただけでお互いににらみ合いをしていたが、小生が前に出ようとするとこの犬は後ずさりするので臆病な性格のよう

であった。それがわかったのであっち行けしっしと追い払う。犬は一目散に下山して行った。

右手からけたたましいバイクの音が聞こえる。そこには尾根に沿って防火帯があるのでバイクにとっては絶好の遊び場だろうが静かな山を期待してきたので幾分残念。しかしこんな山の中で遊ぶのは良識ある大人だろうと思った。このバイクの音に誘われてさっきの犬がものすごい勢いで下から掛け上がってきて小生を追い抜いて行った。

林道の終点に車が1台置いてあり先客がいることがわかる。すぐに防火帯に出る。左の急斜面が大鉢森山への稜線につながっている。オフロードのバイクで急坂を登ったり降りたりしている連中がいるが邪魔にならないよう防火帯の右端を歩く。例の犬はバイクの後を追って吠えながら斜面を上り下りしていた。

いったん鞍部に下った後、山頂への最後の登りとなる。ここで再び例の犬が前方から掛け降りてきた。小生は左に避けて道を譲った。犬は少し通り過ぎた後小生の後を追う姿勢を見せたので後ろ歩きをしながら犬ににらみをきかせて斜面を登った。そうやっているうちに坂を登りきり山頂に続く平坦な台地が出る。

下界の景色を見て思わず「あっ」と言ってしまった。見渡す限りの雲海が広がっている。焼石連峰と栗駒山は雲海から突き出るようにして西方にくっきりとそびえている。こちら側の大鉢森山と焼石の間には雲海しか存在しない。北上盆地は完全に雲海の下に没している。近くの正法寺のアンテナが雲で見え隠れしている。雲の高度は約400mである。こん



写真1

山頂から前沢方面を望む

2000年5月撮影

な景色に初めて遭遇し感動した。バイクの方々も同じような風景は何回か見ているが今日のは今までで最高のものだと言っていた。小生にとっては先月に初登頂した栗駒山の雄姿を眺めることができ最高である。今朝の麓の天気が悪かった理由がよくわかった。

帰り支度をしていると少しずつ雲海が消失し下界の藤橋や北上川が見えるようになった。同時に焼石や栗駒は霞がかかってぼんやりとしか見えなくなった。紅葉を楽しみながら下山する。

< 完 >

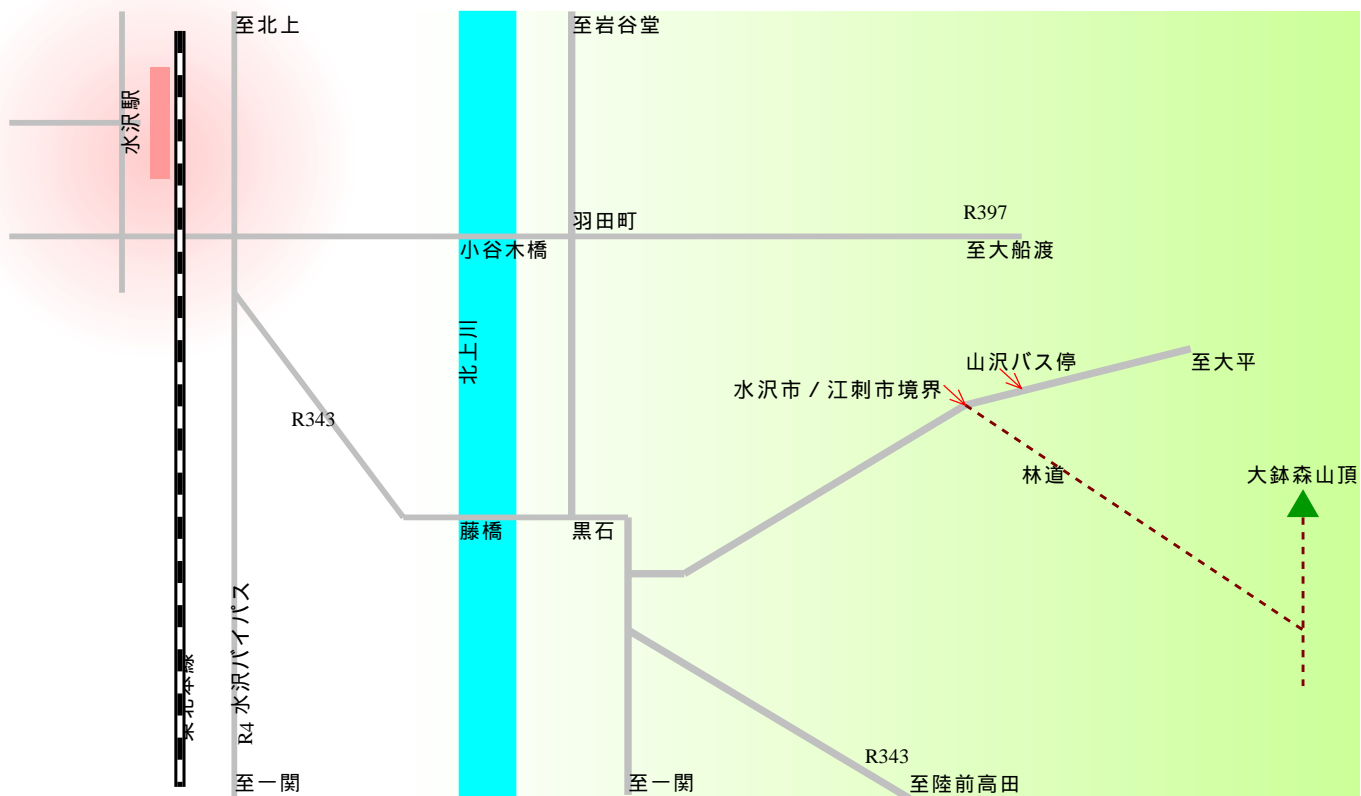


図1 コース略図